

令和 8 年度第 1 回 青梅市工業振興対策審議会 会議録

日 時 令和 8 年 5 月 1 4 日（木）午後 3 時開始

場 所 青梅市役所議会棟 3 階 第 3 委員会室

出席者

委 員（敬称略）

林 英夫、池田 政教、井戸 功誠、岩田 雅行、片桐 正博、
渋谷 貴子、鎌倉 夏来

事務局

野村地域経済部長、並木商工業振興課長

加納工業振興係長、志賀商業労政係長、星野工業振興係主任

株式会社価値総合研究所 鴨志田事業開発部長、渡邊研究員

欠席者

委 員（敬称略）

久保 安宏、吉澤 清志

傍聴者 なし

次 第

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

（1）次期「青梅市商・工業振興プラン」の構成骨子（案）について

（2）次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかる市民ワークショップの開催について

4 報告事項

（1）次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかるアンケート調査の分析結果について

5 その他

6 閉会

発言要旨

3 協議事項（1）次期「青梅市商・工業振興プラン」の構成骨子（案） について

（事務局説明）

委員 資料1のP3に記載されている10年後のおうめの姿（将来像）案では、今回実施したアンケートの結果を、どのように反映させているのか。

事務局 今回のアンケートでは、自由記入欄で多くの方々からご意見をいただいている。例えば、「青梅の魅力や特徴を活かしてほしい」、「新しい成長産業を誘致してほしい」といった意見が多かった。いただいたご意見をそのままの言葉で反映しているわけではないが、様々なご意見を総合的に整理し、将来像に反映している。将来像ではデジタル化について少し強調して記載しているが、これはアンケートにおいて若い方々からデジタル化に関するご意見を多くいただいたことが背景にある。アンケート結果については、後ほど報告事項（1）において詳しくご説明させていただく。

委員 先日5月11日に開催された地域経済再発見フォーラムのパネルディスカッションにおいて議論された内容は、この将来像の中に反映されているのか。

事務局 先日のフォーラムでご議論いただいた内容はまだ取りまとめられておらず、この将来像の中には反映できていないところだが、今後いただいたご意見を踏まえて修正および更新をしていく必要がある。一方で、「青梅インター周辺の開発」や「産業用地」については、可能な限り将来像の中に反映させていただいた。

委員 資料1のP3に記載されているコンセプト案について、ChallengeとAdventureについては意味が重複する部分があるが、敢えて2つ並べたことには何か意味があるのか。

事務局 ご指摘の通りChallengeとAdventureは同じような要素を含んでいることは承知しているが、ワクワク感のあるコンセプトにしたいという点と、青梅駅から奥多摩駅間の愛称である「東京アドベンチャーライン」を彷彿とさせる単語という点からも

Adventure を盛り込んだ。

また、Innovation と Adventure だけでは、「何もない所を突き進んでいく」というイメージになりかねない。月並みではあるが Challenge という言葉を最初に持ってきて、市民、事業者の方々がいま取り組んでいることの延長で新しいことに挑戦していく姿を表すとともに、〇〇&〇〇だとよくある形なので、あえて& を二つにして、Challenge と Adventure で Innovation を挟んで目立たせる形とした。

事務局 10年後を見据えてわくわく感のあるコンセプト案をお示しさせていただきます。

この案に固執しているわけではなく、今後も皆様との議論を通してより良いものを作り上げていきたいと考えている。

委員 3つの単語の並びについては非常に前向きで良い。

委員 地域経済循環をベースに考えることはわかりやすく良いと思うが、一方で、青梅市の地理的条件を考慮すると、他地域との広域連携でも力を発揮できると考えている。事業者の方々は行政界とは関係なく事業をされている方がほとんどである。市の中で閉じた目標ではなく、多摩地域など広域な視点での目標を設定することが必要ではないか。

事務局 おっしゃる通りで、産業は青梅市内だけで成立するものではない。青梅市という点ではなく、西多摩や多摩地域などの面でとらえ、特に販売面では地域外から稼ぐことが重要であると考えている。今後検討する個別施策の中で、これらを見据えた施策を採用していきたいと考えている。

委員 「地域経済循環」の考え方は分かるが、稼ぐ力を高めて外から持ってくるというのが青梅のコンセプトだと思う。特に、工業については、ほとんど地域とは関係なく商売をしている。あまり「地域経済循環」にこだわると方向性が異なるのではないか。

委員 私が経営する会社でも、なるべく地域内から調達したいとは考えているが、一方で、地域外との競争にさらされている中でより安く調達をしていかなければならず、地域内から調達している場合ではないのが実情である。

「地域経済循環」は商業においては重要かもしれないが、工業においては実感として「絵に描いた餅」になってしまうということがある。地域から仕入れたら助成金を出すといった話になりかねないが、それは建設的ではない。10年後のおうめの姿（将来像）案の中には非常に素晴らしいことが書かれているが、「地域経済循環」という考え方がこれらの実現の上で足枷になってしまうのではないかと、特に建設業については違和感を覚えている。

委員 建設業では、日ごろから自然災害への備えなどで地域に貢献しているが、市からの工事受注においては常に地域外の事業者との競争にさらされていると感じている。市の発注においてもぜひ「地域経済循環」に配慮していただきたい。

事務局 市からの発注では、現状では税金を使うことになるため1円でも安くという考え方がある。

一方で、市内の事業者が発注したほうが巡り巡って市民の所得向上につながるという「地域経済循環」の考え方について、先日のフォーラムを通じて庁内関係者や議員の方々にも認識いただけたのではないかと考えている。

今後すぐに実現できるわけではないが、少しずつ「地域経済循環」の考え方を浸透させていきたいと考えている。

青梅市内の事業者のものづくりの力を発揮し競争力を向上させ、これまで地域外から調達していたものが、青梅市内の事業者から調達した方が安い、距離も近いし融通が利いて良いといった状態が、「地域経済循環」において理想とするところであると考えている。

委員 とある会社から、コンプレッサー室からの騒音についてクレームがあったとの話を聞いた。せっかく地域で良いものを作っており、本来は24時間稼働して、少しでも製品を安くできるように生産したいが、近隣に住宅街がある、いつの間にか住宅が建ってしまう、そうした立地だと中々生産性も上がらない。

インターチェンジ北側についての記載もあるが、市が直接関わろうとはしていないと感じる。不動産会社が利益を出さないといけないのは分かるが、このままでは、事業者が安心して操業で

きる環境が整わない。もう少し土地の活用などの方策について、具体的に記載してもらいたい。

委員 ここにあるコンセプトをもとに10か年の計画が決まってくる。ここに盛り込まれないと具体的な施策にも出てこないことになりかねない。少し慎重に議論したい。

事務局 10年後のおうめの姿(将来像)案については、事前に「一般論の羅列で青梅らしさがない」といったご指摘があり、青梅市らしさを盛り込んだ将来像に修正させていただいた。一方で、突貫で作業したこともあり、まだ不足している内容もある可能性があるため、今後も検討を続けていく。

一方で、本計画において最も重要なのは資料1P2の目次に記載の「第2章：施策(商・工業振興に向けた取組)」である。

10年後のおうめの姿(将来像)案は現在の案でも一般論は含まれているが、これをどこまで掘り下げて具体的な施策を検討していくかが重要であると考えている。委員の皆様からいただいたご意見については、将来像の中に盛り込むべきなのか、施策の中に盛り込むべきなのかも含めて今後検討していく。

委員 フォーラムの後にこの案のたたき台に目を通したが、それと比較すると少し青梅らしさが出てきたと思う。

委員 コンセプト案の下に記載している「これから起こる(起こりそうな)変化」と「3つの原則」はここに掲載しなくてもよいのではないか。10年後の姿(将来像)があって、そのための施策を記載するというシンプルな構成でよいと思う。

委員 今でも事業者はみんな頑張っているのに、またChallengeなのかと感じる。最近では、こういったことに配慮してChallengeではなく、ChanceやChangeなどの言葉に変えているコンセプトが多い傾向にある。

また、「3つの原則」において青梅ならではのものは2番目だけである。もし「3つの原則」を残すのであれば、青梅ならではの内容を盛り込み、青梅のための原則なんだということがわかる工夫が必要ではないか。

事務局 「これから起こる(起こりそうな)変化」については、この場所での掲載ではなくとも、いずれかの頁に掲載する必要があると

考えている。「3つの原則」については、記載内容の修正、掲載の有無も含めて今後検討させていただく。

委員 10年後のおうめの姿（将来像）案の中に「農林水産業」という言葉があるが、青梅市における水産業はあまりイメージできない。何か力を入れていきたい施策や事業などがあるのか。

事務局 今後は多摩川の水を活用した陸上養殖などもありうると考えている。実際の動きとして、青梅市内での陸上養殖を検討されている事業者もいる。また、青梅畜産センターでは奥多摩ヤマメという品種のヤマメが開発され、若い実業家の方が成木川の清流で養殖事業を始めている。養殖された奥多摩ヤマメはすでに都内のミシュランガイドで紹介されているレストランで取り扱われている。

また、林業についてはあるが、青梅市内の森林には、樹齢50年で製材として出荷できる樹木が多くあるが、青梅市では林業が継承されていない、林道が整備されていないといった課題があるため、森林環境税を活用して対応していきたい。

考え方として、青梅市に既に存在するが産業として活用されていないポテンシャルをどうにか有効活用できないかと検討を始めているところである。

委員 青梅市内の事業者を支援するということはとても重要である。一方で、Adventureというコンセプトは、青梅市の外に出て何か挑戦することを支援することも含まれるのではないかと思う。事業者が青梅市をハブとして様々な地域で活躍し、青梅市に還元することも地域経済を支える上で重要な姿だと考えており、10年後の姿（将来像）もしくは関連する施策として記載があってもよいのではないか。

事務局 今いただいた色々なご意見に対する一つの方向性として、企業誘致条例の緩和・拡充を検討しており、それにより企業に来てもらう、出ていかないようにしてもらうことを検討していたが、それと並行して事業者が青梅市の外に出て活躍することに関連する施策等についても検討していく。

委員 企業を誘致するにしても土地がないことが問題になる。ある事

業者の方は、事業のための土地を探すために青梅市役所に相談したが、結果的に青梅市から出て行ってしまった。一方で、その事業者は他地域では「ぜひ来てほしい」と市の担当者から熱烈に誘致を受けたとのことだ。青梅市でも市の担当者が積極的に動ける状態をつくるのが大事ではないかと考えている。

委員 奥多摩ヤマメの養殖は非常に良い話だが、市として何かPRなどは検討しているのか。

事務局 市役所としてできるPRとしてはふるさと納税の返礼品として取り扱うことが効果的と考えている。事業者が自ら商品をPRしようとする事業者自らが広告宣伝費を支払う必要がある。一方で、ふるさと納税返礼品であれば、ふるさと納税における寄付金の一部を広告宣伝費に使用することができる。例えば山梨県のシャインマスカットや新潟県のお米はふるさと納税返礼品として取り扱うことで知名度が向上している。青梅市もそういった自治体を参考にして、ふるさと納税で青梅市産のものを全国にPRしていきたいと考えている。

委員 ふるさと納税の返礼品にできるようなものはそれでよいと思うが、それ以外の例えば青梅市の事業者が得意とする技術力などについてもぜひ市においてPRしていただきたい。

事務局 本日の議論内容を踏まえ、コンセプト案、10年後のおうめの姿（将来像）案、施策について引き続き検討していく。構成骨子の大枠については決議をお願いしたい。

委員一同 （構成骨子の大枠について決定。細部について引き続き検討。）

3 協議事項（2）次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかる市民ワークショップの開催について

（事務局説明）

委員 ワークショップは今まで市として実施したことがあるか。

事務局 他の計画策定の過程等で実施している。

委員 ワークショップは2回ともに同じ内容で実施するのか。

事務局 市民の方々が参加しやすいよう土曜日の午後の時間帯と、平日

の夕方・お仕事終わりの時間帯の2回で同じ内容で実施することを考えている。

委員 市民を対象としたワークショップでは、議論内容が商業に偏ってしまうのではないか。

事務局 ワorkshopでは、事務局スタッフが各テーブルの議論を支援する。その際、議論が商業に偏らないよう、事務局スタッフから参加者に質問を投げかけ、工業についても忌憚のないご意見をいただきたいと考えている。

委員 どうしても議論が商業に偏ってしまうと思われ、市民に工業について議論していただくのは難しいのではないかと思う。工業については、商工会議所の工業部会の協力を仰ぐなどして、市内における製造業事業者の若手社員を対象として別で開催してはどうか。

事務局 市民ワークショップとは別の枠組みで、工業に従事する若い方々を対象とした意見交換の場を設けさせていただきたい。恐縮ではあるが委員の皆様には、参加者の招集にご助力いただきたい。

委員 商工会議所の工業部会等で周知する。

委員 各社労働時間の都合等もあると思うので、平日昼間の業務時間中の方が人が集めやすいと思う。

4 報告事項(1)次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかるアンケート調査の分析結果について

(事務局説明)

委員 資料3のP85において「道の駅の設置」に関する意見があるが、青梅市では農協の直売センターが道の駅と同様の役割を担っている。市民の方々にこのような施設をPRすることも重要であると考えます。青梅市からPRしてほしいお店などを募集するなど検討してほしい。

委員 資料3のP81からP85までのグラフについて、アンケートのサンプル数が少ないため難しいのかもしれないが、年代別の

分析結果として「18歳から49歳」は年代が広すぎるのではないか。

事務局 おっしゃる通りで、年代を細かくすると年代別のサンプル数は少なくなってしまう。一方で、さらに細かい年代別での集計自体は可能であるため、計画の参考資料等に掲載する際にはさらに細かい年代別での集計も検討する。

5 その他

事務局 次回日程は8月を想定しており、改めて日程調整させていただく。

以 上